

ナボタス共同墓地の墓地スラムにおける発展 墓地スラムの居住権獲得

Improvement in the cemetery slum of the Navotas cemetery Acquisition of residence rights of the cemetery slum

佐藤信治¹, ○三枝晃²
Shinji Sato¹, *Akira Saigusa²

The number of slum residents in the world is on an increasing trend, according to the United Nations Environment Program, one billion people are said to be doubled in the next 25 years. Meanwhile, slumming in the Philippines is regarded as a serious problem. In the mid-1980s, the long-standing military regime and the corrupted dictatorship that ended by the Educa revolution. After the revolution, the farmers left the region where the strict regulations had been laid, moved to a big city like Manila seeking a better life place. They did not have the funds to establish their lives. The action they took was to make illegal slums throughout the city. The number of people who move to cities increases, and the slums continue to expand. As a result, people will also advance to public places such as cemeteries. In recent years, Philippine economy is eeling as a result of overseas investment and development of manufacturing industry. The population of the country has exploded and the total population of Manila has reached over 20 million people. It is one of the metropolitan areas with a remarkable economic growth exceeding 10 million people in Metro Manila. In Manila it is said that 37% of the population and indeed more than 4 million people are slum dwellers. As seen in other developing countries, poverty is often left behind due to too fast pace of growth. In Manila, not everyone benefits from economic growth but simply increases the number of poor people living in a poor living environment. In Nabotas Cemetery, which is one such illegal slum, it is said that around 6,000 people live among the tombstones as of 2014.

1. はじめに

世界のスラム住民の数は増加傾向にあり、国連環境計画(UNEP)によると 10 億人にのぼり、その数は今後 25 年で 2 倍になると言われている。その中でも、フィリピンは特にスラム化が深刻な問題とされている。

1980 年代半ば、エドゥサ革命後、農民たちは、かつて厳しい規制が敷かれていた地方を出て、より良い生活の場を求めマニラのような大都市に移住した。生活を確立する資金がなかった彼らがとった行動は街のいたるところに違法スラムを作り上げることだった。都市へ移り住む人の数は増えスラムは拡大の一途をたどる。その結果、人々は墓地などの公共の場所にも進出することになる。

近年、海外からの投資や製造業の発展によりフィリピンの経済成長は著しい。国の人口は年々増加傾向にあり、マニラの総人口は 2000 万人を超えるまでに至った。マニラ首都圏でも人口 1000 万人を超え、経済成長の著しい大都市圏の一つである。マニラでは人口の 37%と実に 400 万人以上がスラム居住者であるとも言われている。他の発展途上国でも見られるようにペースが早すぎる成長に貧困層は取り残されてしまう場合

が多い。マニラにおいて経済成長の恩恵を受けるのは、一握りの人々であり、劣悪な生活環境の中で生きる貧困層の数を増やしているだけに過ぎない。

そんな違法スラムの一つであるナボタス墓地では 2014 年現在、約 6000 人が墓石の間で暮らしていると言われている。政府はナボタス共同墓地に住むスラム住民の強制立ち退きを検討している。しかし、それは根本的な解決とは言えず、また他の地で新たなスラムができてしまうのが現状である。

本提案は彼らの確立してきた生活圏の保護、社会進出を推進し、自立するための権利を確立する新たな街の形成を目的としている。



Figure 1. Navotas common cemetery [1]

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.
2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2. 計画背景

2.1. 経済状況

フィリピンの GDP 成長率は我が国日本に比べ少しづつではあるが右肩上がりでありアジアで注目の経済成長国である。だが上記のように急激な経済成長に伴い格差も広がって貧困層を多く作ってしまった。

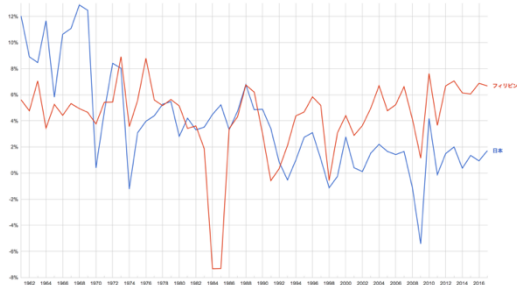


Figure 2. GDP growth rate in Japan and the Philippines [2]

2.2. ナボタス共同墓地の現状

現在ナボタス共同墓地のスラムにはいくつかの改善すべき点がある。

(1)絶望的な収入源の低さ(2)ゴミや遺骨の散乱などによる悪臭、感染症などの衛生状態の悪化(3)食料の確保が困難(4)就職率の低迷(5)政府からの立ち退きが予定されている。

墓地スラムの収入源は墓の清掃などの維持・管理と物品の販売による収入だ。当然、子供達も十分な教育を受けられず首都圏の就職もできず負のサイクルができてしまっており抜け出せずにいる。

この墓地自体も5年リース型のタワー型墓地なため契約を更新しないと遺骨はそのまま掻き出され放置されてしまう。そのため衛生状態も悪化し劣悪な環境下で暮らしている。



Figure 3. Cemetery slum [3]

2.3. 教育水準

矢野経済研究所の2013年調査結果によると、小学校児童数が約1390万人であるのに対し、高校生徒数は約

680万人。この数字はドロップアウトする生徒がかなり膨大であることを物語っている。小学校では約30%の児童が途中でドロップアウト。さらに小学校卒業後にハイスクールに進学するのは全体の50%。大学進学に至っては全体の10%ほどだ。

ドロップアウトが多い原因としては、親が在学中に失業し経済的な理由から学業を断念するケース。そしてフィリピンでは子供が家業を手伝い、家計をサポートしていることも多いという点だ。

フィリピンでは公立学校は授業料は無償であるが、制服代や教科書代などは有償だ。さらに学校内の設備投資や特別授業の寄付金の請求などがある。

経済的な理由から、かなりの数の生徒がドロップアウトを余儀なくされている実状。

3. 基本方針と計画

上記の背景から脱スラム化のため、安定的な収入源の確保と教育環境が必要だと考える。そこで海岸沿いという地理的環境から漁業施設と農業施設、既存の墓関連の職、そして教育施設の複合施設を計画する。これにより(1)安定した収入の確立(2)スラムの子供達の教育水準の底上げ(3)街の衛生環境の向上(4)住民の他へ関心と交流のきっかけを作ることを目的とする。

4. 建築計画

4.1. 導入機能

①教育施設 ②漁業施設 ③住居 ④墓 ⑤肥料加工施設

4.2. 全体計画

ナボタススラムではタワー型の墓の上に住居を構えており、上空間と下空間を分けて生活していることから墓などオープンな施設を下に設置し、住居や教育施設を上へと設置することでスラム特有の犯罪者の隠れ蓑としての場を潰し、生活圏の安全性の向上を狙う。

5. 参考文献

[1]厚生労働省：「貧困・格差の現状と分厚い中間層の復活に向けた課題」

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/12/>

[2] FOCUS「2018年東南アジア主要国 経済の見通し」

https://www.okb-kri.jp/_userdata/pdf/report/168-focus1.pdf

[3]国連連合広報センター「国連環境計画」

<http://www.unic.or.jp/>

6. 引用

[1]「Googleearth」

[2]「GooglePublicData」

[3]「excite ニュース」